

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年1月14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071602322
法人名	有限会社 エルダリースタッフ
事業所名	グループホーム 虹の里
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市高良内町172-1 (電話) 0942-45-5177
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年12月13日

## 【情報提供票より】(平成20年11月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	22 人 常勤 12人, 非常勤 10人, 常勤換算 14人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<u>有</u> ( 100,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> ( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	58 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡辺内科医院、佐々木外科、毛利歯科医院、(株)D. T. B. (訪問歯科)
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は父親の介護がきっかけで、自らの介護施設勤務の経験を活かして3年前にグループホームを開設する。ホームは静かな住宅地の中に位置しており、利用者と職員がホーム近くを近隣の人々と挨拶を交わしながら散歩するのが日課となっている。それにより、設立当初は理解されなかった地域の人々にも受け入れられて自治会活動や地域の昔から伝わる様々な行事への参加も快く受け入れられてきている。運営者、管理者、職員がホームのめざすサービスのあり方について熱心に討議し、地域に根ざした事業所独自の理念をつくりあげて理念に基づいた支援がされている。来年に向け地域の方々も招待する文化発表会の取り組みも計画しており、今後大いに期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価による理念の見直しや研修については、具体的改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を十分理解し、今回の自己評価は職員全員で取り組んでひとつにまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市長寿介護課職員、民生委員、老人クラブ代表、家族代表等の参加で2ヶ月ごとに会議を開催している。利用者に関する状況や行事等の報告をし、参加者の希望を受けて一緒に避難訓練を行うなど意見をサービス向上に活かしている。市主催の勉強会へ毎月参加して担当者で話し合いの機会をつくっている。また、困難事例についても相談してサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	毎月ホーム便りで利用者の状況や行事等の報告をしている。金銭管理は毎月の領収書、出納簿コピーを請求書に同封して郵送しており、身体状況に変化ある場合などは、その都度個別に電話で報告している。また、管理者、職員は家族面会時に不満や苦情及び意見を話していただけるような声かけや対応をしている。過去に家族から転落防止のためのサイドレール取り付け希望や買い物支援、介護方法についての要望などがあった。できることはその都度運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会活動で資源ゴミ回収ボックスの設置、及び回収をホームが担当している。また、地域の夏祭りへの参加や、9月末に開催される子供神輿に來苑を依頼したり、左儀長と言われるどんど焼きに参加するなどの地域活動で地元の人々との交流を努めている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年2月に管理者と職員で理念を作るにあたり「地域とは」「生活とは」「高齢者とは」を基本に、虹の里の目指すホーム像を描いた地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者(書家)の清書で玄関やホールの見やすい場所に理念を掲示するとともに、ミーティングや会議の折に理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会活動で資源ゴミ回収ボックスの設置、及び回収をホームが担当している。また、地域の夏祭りへの参加や、9月末に開催される子供神輿に來苑を依頼したり、左儀長と言われるどんど焼きに参加するなどの地域活動で地元の人々との交流を努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を十分理解し、今回の自己評価は職員全員で取り組んでひとつにまとめている。また、前回の評価を活かし、理念の見直しや玄関の鍵の開放、研修についての具体的改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市長寿介護課職員、民生委員、老人クラブ代表、家族代表等の参加で2ヶ月ごとに会議を開催している。利用者に関する状況や行事等の報告をし、参加者の希望を受けて一緒に避難訓練を行うなど意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の勉強会へ毎月参加して担当者と話し合いの機会をつくっている。また、困難事例についても相談してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修会に参加している。更に、内部での研修会で職員が学ぶ機会を持ち、必要な人に活用できるよう取り組んでいる。過去に2名の利用者へ制度活用を支援した。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りで利用者の状況や行事等の報告をしている。金銭管理は毎月の領収書、出納簿コピーを請求書に同封して郵送しており、身体状況に変化ある場合などはその都度個別に電話で報告している。職員の異動等については、家族の面会時にその都度報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は家族面会時に、不満や苦情及び意見を話していただけるような声かけや対応をしている。過去に家族から転落防止のためのサイドレール取り付け希望や買い物支援、介護方法についての要望などがあった。できることはその都度運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の連続休暇を3日間は可能として趣味活動にも参加できるよう配慮している。更に長期休暇希望にも勤務を調整して応じ、異動や離職を最小限に抑える努力をして利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女22歳から65歳までの職員が勤務しており、年齢や性別等で採用対象から排除することはない。また、希望すれば3日連続の休みも可能で趣味やスポーツ活動などの社会参加や自己実現の権利保障にも配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の人権研修へ参加した職員が、他の職員への伝達研修を実施している。また、毎月実施している職員研修でも人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の内部研修と月1回の職員会議を開催し、更に処遇記録研修やグループホーム部会の終末期介護についての研修など外部研修にも多くの職員の研修参加をすすめている。また、研修報告を内部研修で行い職員を育てる取り組みを進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護サービス事業者協議会の勉強会へ毎回数名の職員が参加して同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上への取り組みをしている。しかし、他のグループホームなど同業者間の相互訪問活動への取り組みには至っていない。	○	事業所外の意見や経験が職場内の日頃の悩み解消や緊急時の連携をスムーズにするなど、事業所や地域全体としてのサービス水準の向上につながるよう同業者間の相互訪問等の活動を行うことが望まれる。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用で場の雰囲気に馴染み、サービスを利用する方や入院先から直接利用開始する方もいる。その場合は、職員が何度も出向いて本人、家族、関係者との話し合いを持ち、特に本人との馴染みの関係づくりに努め安心感を持っていただくよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は生活を共にする中で昔から地域に伝わる行事等の慣習を学び、また、利用者(書家)に理念の清書をお願いするなど人生の大先輩である利用者と共に支えあう関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介護の中で、本人の発した言葉や行動から願いや思いを汲み取る様に努めている。本人からの聞き取りが困難な場合は、家族からの情報をもとに検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の職員会議で話し合いをしている。本人の状態の変化や家族の思い、職員の気づきを基に介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化がなくても月1回の職員会議で話し合いをしており、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。また、入退院などで身体状況に変化ある場合には主治医や関係者の助言指導を仰ぎながら新たな介護計画の作成に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	帰宅できずとも遠くから一目だけでも家が見たいと希望する利用者を自宅近くまでお連れした事がある。利用者の希望を叶えるため、月に4～5日は基準以上の手厚い勤務体制をとり利用者の安心と笑顔を取り戻すため柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を受診している利用者も数名おられる。遠方からの利用者については、契約時にホームの協力医を紹介するなど適切な医療が受けられるよう支援している。基本的には家族に受診の同行をお願いしている。職員が通院介助をした場合は、毎回受診結果を家族に伝えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は経済的なことも含め説明を行い家族の意向を確認している。可能な限り希望に添えるよう話し合いを重ね主治医と家族、職員で方針を決めている。主治医からの「大丈夫」の一言が職員は心強く全職員で介護にあたっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員に対し「居室は自宅、ドアは玄関である」と常日頃から指導している。態度や言葉使いも温かく心地良い。個人の記録はファイルに綴じ事務室に保管されている。調査の日は排泄チェック表がカウンターの上に表向きに長時間置いてあった。	○	ホームには、家族や外部の訪問者も多いことから、個人情報の取り扱いには十分な配慮が必要である。今一度プライバシー保護への取り組みに期待したい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の後、居室に帰りくつろぐ人やそのままホールのソファに座りテレビを見たり職員とおしゃべりを楽しむ人、それぞれが自分のペースで日々過ごしている。職員は常に寄り添い一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年の11月から食事の形態を変えたばかりである。今まで食事作りに慣れない職員が時間を取られ本来の業務に支障が出ていた。半調理したものが納品されお湯で温めるだけでおいしい食事を利用者と共に食べている。毎日のおやつは手作りでも楽しんでもらっている。利用者はおしぼりたたみやおやつ作りや片付けを職員と一緒にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼から夕方の5時過ぎまで入浴することが出来る。一人ひとりの桶に好みのシャンプーを準備し気持ちよく入浴が出来るよう支援している。また表と裏を色分けした名札を準備し利用者にも順番がわかる様に工夫して、毎日名札を入れ替え誰もが1番風呂に入れるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	2人の利用者がテレビを見ながら洗濯物をたたんでおられた。職員はその都度声かけ感謝の言葉を忘れない。習慣であった朝刊取りをホームでも続けている男性利用者もおり出番作りや役割作りに取り組んでいる。また夕食時にビールや焼酎を楽しみにしている利用者もおり、一人ひとりがその人らしく楽しく生活できるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	10時に健康チェックを行い、11時頃から30～40分かけてホーム周辺を散歩することを日課としている。車椅子の方も誘いながら常時3～4名で出かけている。時にはドライブを兼ねスーパーに買い物に行ったり、馴染みの店に洋服を買に行ったり、積極的に外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の調査後に鍵をかけないケアを1ヶ月取り組んだが、玄関が死角になり出かけた利用者を発見するまで時間を要した。鍵をかけることの弊害を管理者、職員は十分理解しているが、やはり危険と判断して玄関の自動ドアはボタン式に戻している。	○	鍵をかけないケアの実践に向け取り組み続けることが重要です。運営推進会議を利用し、他に何か良い方法がないか行政や家族にも意見を求め前向きに検討することを期待します。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施している。避難訓練計画に基づき年に1回は消防署の協力を得ている。夜間を想定した訓練や緊急連絡網の作成など取り組み実施している。運営推進会議で出席者に参加を呼びかけてはいるが、地域住民への参加要請までには至っていない。	○	災害時には地域の方々の協力が不可欠な事から、平日頃からの働きかけが重要です。ホームの行事に近隣の方や地域の消防団員の方々を招待し足を運んで頂くことから始めてはいかがでしょうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事と水分摂取量を経過記録表に記載し、月1回の体重測定を目安にして健康管理に努めている。嚥下困難な方には刻み食やかゆ食の対応もしている。口渇感の訴えの少ない利用者には生姜湯やゆず茶・抹茶くず茶・紅茶・コーヒーなどを準備して美味しく飲んで頂けるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階2階と同じ造りであるも、それぞれのユニット毎にテーブルやソファの位置を工夫して皆が集うホールには加湿器を備えるなど健康にも配慮している。また、布製の手作りカレンダーもあり温かい。しかし車椅子で入れるトイレにはカーテンが掛けられているが、扉がないため居心地よい共用空間づくりが十分とは言えない。	○	排泄時にはプライバシーが保てるような環境が望まれる。車椅子でもスムーズにトイレに行けるよう、間口を確保するタイプの扉の設置など住宅改修にあたっては専門業者に相談し、居心地よく暮らせる住まいに向け検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはクローゼットがあり照明とエアコンとカーテンが準備されている。自宅で使っていたベッドやダンス、冷蔵庫やテレビを持ち込んでいる利用者もいる。壁には家族の写真や年賀状、誕生カードを貼り、自分らしく居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>		